



生き抜く力

草食動物の多くは、誕生したら間をおかず、自分の脚で立ち上がります。それは、立ち上がらないと命に係わるからです。

また、肉食動物はある程度成長したら、成獣が幼獣に狩りの仕方を教える種もいます。

どちらも厳しい野生を生き抜くために必要なこととして本能的に行っているのだと思います。そしていつまでも大人が子どもの面倒を見ることはありません。それは先に生を受けた者から順に寿命が尽きる摂理を知っているかのようでもあります。

人と野生生物を同列に語ることはできませんが、時々野生生物の方が人より子どもに対して「生き抜く力」を育んでいるように思える時もあります。

では、人にとっての「生き抜く力」とは何でしょうか。野生生物のように誕生してすぐ立つとか狩りをする事とは当然違います。それは次のようなことではないでしょうか。

- ・ 困難なことに出会ってもそれを乗り越える思考力や精神力
- ・ 自分も他人も心地よく生活できるようにする調整力
- ・ よりよい生活を多くの人と紡ぎだせる創造力
- ・ 社会のルールやマナーを守る道徳性や公共性 などがあげられます。

子どもを愛おしく思い、慈しむのは人として当然の心情です。しかし、と同時に子どもが変化の激しい社会をたくましく生き抜き、社会の一員として協同して充実した社会をつくれるようにしておくのも大人の大事な役割の一つと思えます。